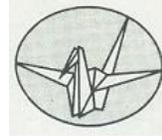




# 被団協



● 発行所  
被爆者連絡センター  
札幌市白石区平和通  
17 丁目北 6-7

北海道版 北海道ノーマア・ヒバクシャ会館内  
TEL/FAX 011-866-9545

北海道被爆者連絡センター ホームページ [http:// h-nomore-hibakusha.org](http://h-nomore-hibakusha.org) メール [dohidankyo@poppy.ocn.ne.jp](mailto:dohidankyo@poppy.ocn.ne.jp)

## アメリカ・イスラエルはイランへの先制攻撃をやめ即時停戦を、被爆者はすべての戦争に反対します—

2月28日、アメリカとイスラエルは核開発疑惑をめぐる外交交渉中に、「自衛措置」と称して突然イランを攻撃、イランも反撃に出ており、紛争の拡大と報復の連鎖が心配です。民間人の犠牲も拡大しています。

国連のグテーレス事務総長は「国連憲章を含む国際法に基づく義務を厳格に順守せよ、外交の機会が無駄にされた」と訴え、危機感をあらわにしました。

日本被団協は3月5日、「国際法を無視するイランへの先制攻撃に抗議し、即時停戦を求める」被爆者は大切な命を奪うすべての戦争に反対する」との声明を発表しました。

高市首相は「法的評価は差し控える」とダンマリ、他方茂木外相は「核開発反対は日本の一貫した方針」と述べるとともに、イランによる「湾岸諸国の民間施設への攻撃」を非難しました。しかし、アメリカに対しては一言も言っていない。

核兵器を背景に軍事力による他国を攻撃するやり方はトランプ政権に顕著です。ウクライナを侵攻4年のロシアと同じです。こうした動きを背景に、NATO諸国を含め諸外国に核兵器開発、保有、共有の動きが広がるのではないかと心配です。

### 4団体共同で街頭宣伝、署名活動

核兵器禁止条約が発効して5年の1月22日、被爆者連絡センターは、北海道生協連、平和運動フォーラム、原水協とともに、札幌駅南口広場で「核兵器禁止条約発効5周年記念 核兵器も戦争もない世界を、ともに 共同行動」を実施しました。

各団体が日本政府に非核三原則の堅持、条約への参加を訴え、あわせて日本被団協が取り組んでいる「日本政府に核兵器禁止条約の署名・批准を」との署名を呼びかけました。



### 新年の抱負を語り合う

被爆者連絡センターは1月17日、札幌市内で2026年新年会を開きました。会員ら19名が参加。挨拶に立った宮本須美子代表理事は、被爆体験の継承と核のない世界実現に向けた活動



継続を呼びかけました。

参加者一人ひとりが自己紹介を兼ねて新しい年への期待や抱負を発表。10年ぶりの再会を喜び合う人たちも。被爆者と被爆二世と支援者が和気あいあいと懇談し、明日への英気を養うひと時のくつろぎの時間となったようです。